

令和 4 年度 学校経営計画及び学校評価

1. めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という『建学の精神』のもと、学校教育を通じて地域社会からの信頼や期待に応えられる学校、生徒が何歳になっても誇りを持って語れる学校、教職員が生徒の満足を自らの喜びにできる学校づくりをめざす。

【生徒像】

- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけ、責任ある行動がとれる生徒
- 国際社会において活躍するために、たくましく生きる力を身につけた生徒

2. 中期的目標

「基本的な生活習慣の確立および大学進学実績の向上」という重点目標の達成をめざし、各部署・各学年で4月当初には活動方針を策定する。できる限り目標を数値化し、その目標を達成するための具体的な方策を立案する。学期ごと（8月、12月）に進捗状況、3月に目標達成状況（総括）を管理職に報告し、次年度への課題を明確にし、R-PDCAサイクルを確立させる。

1. 生徒指導を基盤にした学習指導と進路指導を確立する。

（1）学力向上と進路実現

生徒が6年間の学校生活の中で自らの進路目標を持ち、自己実現できる進路を獲得できるよう取り組む。

- ① 6年間を見据えた進路指導の計画に即し、学習指導を行い希望する進路を実現させる。
- ② 教科会議を充実させ、授業内容の点検や指導法の研究を行い授業力向上に取り組む。特に、高大接続改革を見据え指導法の工夫改善を行う。
- ③ 前期課程の段階から学問探究団「RYS」（論より証拠）や総合的な学習の時間「学芸ESD」の取組みを通して、自分の進路に対する意識を向上させる。前期課程でどの進路を選ぶことがふさわしいかを考えさせ、後期課程の4年生から文理選択を行う。
- ④ 自学自習の習慣を身につけさせ、自己の進路を自らの力で切り開く姿勢を育成する。

（2）基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的生活習慣の確立」である。すべての教育活動を通じ「素直に人の話を聞ける生徒」「挨拶のできる生徒」「ルールを守る生徒」の育成に努める。

- ① コミュニケーション能力を育成し、良好な人間関係を構築することで、学校生活への満足度を高める。
- ② いじめを許さず、生徒全員が安心して登校できる学校づくりをめざす。
- ③ 校内および通学途中における服装の乱れをなくし、マナーを守ることのできる社会性を育成する。

（3）社会性・協調性の育成

少子化・核家族化の影響で親の過保護・過干渉の中で育ってきた生徒たちは、自己中心的な性格になりがちであり、協調性や耐性に欠ける面がみられる。建学の精神にある社会に貢献できる人間を育成するための取り組みを教育活動全体の中で実施し自己肯定感を高めていく。

- ① 体育祭や文化祭等の学校行事や人権教育などの取組みを通して他者への思いやりや協調性、自分の意見を相手に伝える力（コミュニケーション能力）を育成する。
- ② 限られた時間や施設での部活動だが、その中で持続力や耐性を養い協調性を育成する。
- ③ 様々なボランティア活動を通して、社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。

2. 保護者に信頼される学校づくり

（1）保護者への情報提供

校区を持たない完全6年一貫の本校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。さらに、1学年1クラスの少人数のメリットを最大限生かし、より丁寧な連携を取っていく必要がある。

- ① 三者面談や保護者会・進路説明会を通して学校生活の様子や卒業後の進路を保護者とともに考える中で、信頼関係を築いていく。
- ② 進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路希望を担当が十分把握し、保護者と生徒の願いを学校が受けとめることにより、信頼関係を築いていく。
- ③ 学校生活の様子をホームページ等で情報発信する等、開かれた学校づくりを進めることで保護者との信頼関係を深める。

（2）危機管理体制の確立

地震や豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ発生するかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められる。

- ① 避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。
- ② 帰宅困難となる生徒が出た場合を想定し、保護者との連絡体制を整えていく。

【自己評価の結果と分析・学校協議会の意見】

＜自己評価の結果と分析＞

募集停止となり3年が経過、在校生も後期課程のみとなり、少人数教育のメリットを最大限生かした教育の提供により生徒・保護者の満足度は上がっていると実感している。さらに、生徒のモチベーションをアップさせ、やる気を引き出す行事や取り組みを一層充実させる必要性を感じている。

新型コロナウイルス感染症による様々な制約が徐々に解除され、生活や学校行事が元に戻りつつある。引き続き『子どもの学びを止めない』ということを前提に、コロナ禍での経験をプラスと捉え、この期間に習得したオンライン授業なども活用し教育の提供を実践している。

□ 学力向上と進路実現

- ・令和4年度は、世間的にもwithコロナという言葉に代表されるように、学校教育の場でもいかに生徒の安全面を第一に考えつつも教育を取り戻す、新しい学びを取り入れるという発想が生まれた。昨年度の経験も踏まえ、Classi、Google Classroom、ロイノートの活用が充実し、課題配信および提出・点検等でより充実した教育の提供はできた。
- ・普段の授業では、タブレットや電子黒板などのICT機器を活用した授業づくりが成果を挙げており、生徒の興味関心を引いていると考えられる。
- ・6年完全中高一貫の本校は高校入試がなく生徒のモチベーションを6年間維持することは難しいが、やはり教員が生徒の興味関心を引く授業を展開し、生徒の理解度を高めていくことが一番大切である。また、6年間を見据えたカリキュラムを組んでいるが、途中でつまづいてしまうとそれが最後まで影響してしまうので、計画的に個別指導を充実させる必要がある。
- ・教員の授業力向上を目的として、生徒による授業評価アンケートを実施した。教員が経年比較をしながら自己分析を行い、分析結果を評価シートにまとめた後、提出させ指導助言を行った。課題を明確にすることが大切で、指導法の工夫改善につなげている。また、教科会議で授業アンケートの分析を行った。
- ・教員の全般的な指導力向上を目指し、学習指導・生徒指導・校務分掌の3項目について「自己評価シート」を作成させている。4月に目標、8月と12月に進捗状況、3月に達成状況を提出させ指導助言を行っている。
- ・保護者による学校評価アンケートで「全科目にわたり学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」という問いに対し、全体の肯定回答は、67%で前年度より9ポイント増加している。全般にテストの点数等、目に見える成果を重視して回答する保護者が多いように思われる。
- ・保護者アンケート「進路指導は充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」という問いに対し、全体の肯定回答は、高い数値で維持している。(2020: 58%、2021: 74%、2022: 72%)。高校入試を経験しない本校では、前期課程の段階から進路に対する意識の向上を図るよう指導してきた成果である。また、6年間をかけて大学進学を目指していく中で、自分の将来を見据えることは重要なポイントである。授業以外の「ESD」や「RYS」などの取り組みも継続し、将来の夢や進路について考える生徒を増やしていく必要がある。

□ 基本的生活習慣の確立

- ・日常の生活の中で、大きな声であいさつをする、時間を守る、ルールを守る等、基本的生活習慣の確立が大切である。そして、その根幹にあるのが人の話を素直に聞く、自分の気持ちを自制するという心の育成である。定期的に二者面談を行い、常に生徒理解に努めている。
- ・学力向上とともに豊かな人間性を培う指導を充実させる必要がある。保護者アンケート「子どもに獲得させたい資質」という問いの回答として、「学力・知力」に次いで「自主自律の姿勢」「協調性・社会性」「将来を切り開いていく力」「責任感」が上位を占めている。

＜学校協議会の意見＞

□ 学力向上と進路実現

- ・募集停止後、3年が経過し、令和4年度は後期課程だけとなりました。学年が減って行くことでの教育活動の難しさはあると思いますが、在籍生徒が卒業するまで責任を持って面倒を見て戴きたいと思います。
- ・withコロナの時代は以前にも増してICT機器を活用したオンライン授業の活用が求められると思います。今後とも、双方向の授業展開を推進して戴けたらと思います。
- ・6年間を系統立てたカリキュラムを組んでいる中で、途中でつまづいた生徒に対するフォローについては、少人数の生徒の利点を生かしてきめ細やかな個別指導を進めて戴ください。
- ・進路実現についても少人数ならではのキメの細かい進路指導を行なって戴けたらと思います。
- ・募集停止に伴い、中等教員の人数も減ってきましたが、保護者アンケートでは、「教員の学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」との肯定回答が67%と前年度より9ポイント増加しています。前年度(R3)は前々年度(R2)より7ポイント増加しており、この2年間で16ポイントと顕著な効果を挙げていることは大変評価できます。
- ・また進路指導は充実しているとの回答が72%と、前年度に続いて高い数値を維持しています。こちらもキメ細かく、丁寧な指導の成果だと評価できます。残りの3年間も宜しくお願い致します。
- ・授業以外の「ESD」や「RYS」など中等教育学校の良き取り組みとして、最後まで続けて戴きたいと思います。

□ 基本的生活習慣の確立

- ・時間を守る、ルールを守る、あいさつをする等の基本的生活習慣の確立は、すべての教育活動の基盤であり、またこれらは学校だけでなく、家庭での教育も重要だと思います。学校と家庭が緊密に連携をしながら基本的生活習慣を確立出来たらと思います。
- ・保護者アンケートの「子どもに獲得させたい資質」という問いの回答として、「学力・知力」に次いで「自主自律の姿勢」「協調性・社会性」「将来を切り開いていく力」「責任感」が上位を占めています。学力と人間性のバランスの取れた人格を醸成し、社会に有為な人材を輩出して戴けるよう、引き続きキメの細かい指導を宜しくお願い致します。

□ 社会性・協調性の育成 ・全校あげての学校行事については、コロナ禍ではあったものの感染対策に万全を期し文化祭は生徒のみで実施、体育祭はスポーツフェスティバルと称し外部施設（エディオンアリーナ）で実施。運動会と球技大会を兼ねた形で、保護者の観覧ありで行った。趣向を凝らし例年と異なる形態であったが、学年を越えた一体感を生み出し大いに盛り上がった。新型コロナウイルスが終息しない状況で、今後、生徒数も減少していく。行事の見直しや精選が必要であるが、生徒の満足度を上げる内容の工夫が望まれる。 ・すべての教育活動を通して社会性や協調性を育てるために、様々な教育活動をキャリア教育の視点から見直す必要がある。現在行われている教育活動が単発ではなく有機的な繋がりをもつように、部署間で連携し横断的に内容を検討する必要がある。 ・「RYS」の取り組みは、ゴミひろいの社会奉仕プログラム『ピリカ』の活動、SB国際会議（サステナブル・ブランド）の大会参加、奈良フィールドワーク、大阪市議員意見交換会の参加、あべのハルカスバックヤードツアーなど、生徒自ら考える機会となり大いに成果を上げた。 □ 保護者への情報提供 ・学校の様子を保護者へ情報発信していくことや連携をしっかりと丁寧に対応していくことが信頼関係を築いていくうえで大切な要素である。タブレットの活用は定着してきたが、今後有効なツールとなると考えられる。 ・保護者アンケートの「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」という問いに対し、今年度は87%と高い肯定回答があった。教員と生徒の関係は非常に重要であり、創立当初より教員と生徒の距離が近いことが特色の一つである。まだまだ十分ではないが、一人一人の生徒の心に寄り添う指導を推進し、生徒の満足度が高まるよう努力を続ける必要がある。 □ 危機管理体制 ・ここ数年、豪雨や台風等により大きな災害が多発している。常に、危機管理体制に万全を期すことが求められる。 ・機会あるごとに、防災に関する心構えを伝えている。本校では大阪880万人訓練時に生徒に警鐘を鳴らし、クラス単位で取るべき行動の確認をした。また住吉消防署の協力を得て、大阪学芸高校・附属中学との合同避難訓練を実施した。 ・本校は大和川の南からの通学者も多数在籍し、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想される。各自が防災セットを購入し教室に保管している。	□ 社会性・協調性の育成 ・本年度はコロナウィルスの影響があったものの、文化祭、体育祭ともに実施出来たことは大変良かったと評価します。学年数が年次で減って行く中で、学校行事の実施・運営は難しいものと推察しますが、体育祭は「スポーツフェスティバル」と銘打って、運動会と球技大会を兼ねた形で実施されたということで、少ない生徒数ながらも実のある行事になるよう学校挙げて工夫されたことは、評価致します。こうした学校行事を通じて生徒は団体活動の重要性を学び、社会性や協調性を身に付けて行くことでしょう。 ・「RYS」は中等教育学校で長く取り組んで来た活動です。生徒数が減って行く中でも、色々な取り組みを積極的に継続しておられることは良い事だと思います。 「RYS」・「ESD」の取り組みも継続し、将来を見据えたキャリア教育の視点を持って、進路獲得に向けて努力して欲しいと思います。 ・ゴミ拾いの社会奉仕プログラム「ピリカ」の活動は、ボランティア精神の醸成に大変有効だと思います。 □ 保護者への情報提供 ・保護者への情報提供、情報発信は大変な重要なことです。情報機器を積極的に活用してタイムリーな情報提供を心掛けて欲しいと思います。 ・その一方で対面での情報提供、コミュニケーションの機会も積極的をお願いします。 ・保護者アンケートでは「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」という問いに対し、87%の高い肯定回答でした。少人数ならではのキメ細かい指導を引き続き宜しくお願い致します。 □ 危機管理体制 ・ここ数年の豪雨や台風等への備えとして、中等教育学校単体ではなく、学園全体でしっかりと取り組んで戴けたらと思います。その点、高校、附属中学校との合同避難訓練の実施は良い取り組みだと評価します。 ・昨今、大きな自然災害が多発しています。生徒の安全を第一に考え、学園全体として危機管理体制に万全を期して戴きたいです。
--	--

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力向上と進路実現	1. 学力向上と進路実現に向けた取り組みの強化	6年間を見据えたカリキュラムを編成し、学力をしっかりと身につけさせるよう教育実践を行ってきた。 生徒の興味関心を引く授業を展開し、生徒の意欲を向上させる学習指導を行う必要がある。	(1) 授業アンケート「意欲度」の指数（肯定回答－否定回答）を60%以上にする。	生徒が明確な目標を持ち、6年間で確かな学力を身につけることが自らの進路実現につながっていく。生徒のやる気を引き出し、「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を実感できる授業づくりが大切である。 ○アンケート1「あなたにとって先生の授業は意欲的に取り組める授業ですか」の指数（授業アンケート） 後期課程：全体 72% 4年 75% 5年 62% 6年 81% (1年前) (72% 66% 77% 73%)
	(1) 生徒の授業満足度を上げる。			
	(2) 自学自習の態度を育成し、意欲的に学習する姿勢を身につけさせる。	(1) 学力向上のために「わかる授業」を生徒たちに保障する。		すべての学年で、評価指標の60%を上回っている。一人一台のタブレットを導入しており、それを活用した授業展開も定着してきた。生徒の意欲向上の要因と

学 力 向 上 と 進 路 実 現	(3) 希望する進路を実現させる。	(2) 多様な進路希望に対応した学習指導を充実する。		なっている。生徒のコメントにも、ICT機器を使った授業に興味関心を引くという内容が多く見られた。教科別で差異があるので、常に生徒の学習状況を把握し、個別指導を充実させる努力が必要である。
		(3) 6年間系統立てた進路指導を实践する。	(2) 授業アンケート「学力向上度」の指数（肯定回答－否定回答）を40%以上にする。	○アンケート2「先生の授業をうけることで、あなたの学力や知識に変化を感じましたか」の指数 (授業アンケート)
				後期課程：全体61% 4年73% 5年46% 6年67% (1年前) (54% 31% 56% 69%)
			(3) 授業アンケート「理解度」の指数（肯定回答－否定回答）を70%以上にする。	前年度と比較しても学年によって指数が大きく異なる。指数が高い学年は進路目標等が明確になり進路獲得に向け熱心に取り組んでいる。 5年生は指数が低い経年比較では昨年より15%向上している。早期の学習のつまづきを見つけ一人ひとりの学力に寄り添った指導の効果があらわれてきた。 ○アンケート3「先生の授業（説明や指示）はわかりやすいですか」の指数 (授業アンケート)
			(4) 保護者アンケート「進路指導」の肯定回答を60%以上とする。	後期課程：全体77% 4年83% 5年65% 6年87% (1年前) (74% 60% 81% 79%) 4年と6年で高い指数を出している。教員と生徒との関係性が良好であることが、この数値にも出ている。5年生で評価指標の70%を5%下回ったが、経年比較では5%の向上がみられる。 「学力向上度」の指標と同様、基礎学力をしっかりと定着させることが理解度につながっていく。 ICT機器を大いに活用した、興味・関心を引く授業づくりが成果を挙げつつあるが、今後も教科会議を充実させ、授業づくりの研修を深めなければならない。 ○アンケート4「進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」の肯定回答した保護者
			(5) 「管理自習室」の利用を促進する。	全体72% (前年74%) 4年74% 5年48% 6年93% 全体としては前年よりマイナス2%であるが、6年の93%は昨年に続き高い数値を維持し、学校生活のみならず進路獲得に向けての指導が十分に伝わっていることを示している。 「わからない」という保留回答は5年で昨年21%だったのが4%になったことは大学進学（進路指導）が現実的になってきたことがうかがえるが、まだまだ肯定回答が半分に満たないことは課題としてある。生徒に大学受験を意識づけると共に、これからの社会を見据え、将来の目標を意識できるよう、「RYS」や「進路説明会」などの取組みを継続させる必要がある。 ○自学自習の習慣を身に着けることを目的に「管理自習室」を開設している。新型コロナウイルスの影響で、昨年度は開設時間を縮小して実施していたが、通常の21時にまで戻し実施。18時30分までの学年での自習室は多くの生徒が活用し、自学自習の習慣が定着している。特に4学年は学年での取り組みとして放課後に教科担当が教室で質問対応などのサポートを実施。また、情報室（管理自習室）のノートPC「Chromebook」を活用し、サテネットやスタディサブリの学習動画を視聴する生徒もいる。

基本的 生活 習慣 の 確 立	2. 規律ある学校生活 の確立	思春期の中高6年間は、身体も心も大きく成長する時期である。本校で過ごす中で、子どもから大人へ大きく成長する過程が見られる。発達段階に応じ、集団の中で規範意識を高め、人間関係を構築する態度を身に付けさせる。常に教員は生徒の心に寄り添い、公平な目で生徒を指導できるようにする。 相手の立場を考えた適切なコミュニケーション能力を身に付けさせる。 学級経営において、教室の環境整備は欠かせないもので美化意識の向上に努める。	(1) 保護者アンケート「生徒指導」の肯定回答を 60%以上にする。	学校全体が落ち着いた雰囲気と規律性を保っていないと、目標の達成にはならない。集団育成の視点を持ち、授業規律を徹底させることが大切である。 ○アンケート1「生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている」の肯定回答をした保護者			
	(1) 規範意識と自律性の醸成 (2) 集団育成および人間関係の構築	(1) ガイダンスに定められた事項をきっちり守れるよう、常に意識をさせる。ルールに沿って学校生活が円滑に進むよう指導する。 (2) 「いじめ事象」に関しては、いじめ防止対策委員会を組織することで、「いじめ」を抑止するとともに「いじめ事象」には担任だけでなく、教職員全体の問題として取り組む体制をつくる。 (3) 教室の学習環境を整備するため、清掃・美化活動を徹底する	(2) 個々の生徒理解に努め、学校生活に対する生徒の満足度を高める。 (3) 保護者アンケート「公平な対応」の肯定回答を80%以上にする。 (4) 教室の環境整備に努める。	<table><tr><td>全体 73%（前年 72%）</td><td>4 年 74%</td></tr><tr><td></td><td>5 年 52% 6 年 93%</td></tr></table> 前年度同様、目標数値を上回っている。5 年の数値が目標のマイナス 8%となっている。各学年ともに、全般に落ち着いた学習環境の維持が出来つつあるが、生徒指導体制を再度点検し見直す必要がある。 今後も個々の生徒理解に努め、学校生活の中で生徒のコミュニケーション力を高めていく必要がある。 ○定期的に担任との二者面談を行うとともに、いじめアンケートを学期に 1 回実施している。相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力を育成し、言葉の行き違いなどから「いじめ事象」に発展しないよう、常に考えて行動できるように促す。また、学級で起こる様々な問題について生徒に考えさせ、クラス全体でいじめ防止に取り組ませる指導も大切である。「いじめ事象」が発生した場合は、いじめ防止対策委員会で協議し厳格に対応していくが、ここ数年は開催していない。 日々の教育実践を通じて、生徒と教員との信頼関係を構築し、生徒がいじめ等の悩みを打ち明けやすい雰囲気づくりに努める。人間関係で不安を持っている生徒に対しては、学校カウンセラーと連携し対処している。 ○アンケート2「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」の肯定回答をした保護者	全体 73%（前年 72%）	4 年 74%	
全体 73%（前年 72%）	4 年 74%						
	5 年 52% 6 年 93%						
	3. 社会性・協調性の育成	(1) 地域貢献活動やボランティア	(1) ボランティア活	新型コロナウイルスの影響で、学校行事や校外での様々な活動が、規模や内容を縮小して実施した。 ○セレッソ大阪のホームゲームでのボランティア活動			

社会性・協調性の育成	への積極的な参加 (2)行事の精選 (3)部活動を含む課外活動の充実	活動に取り組み、豊かな社会性の育成を図る。 (2)部活動や学校行事に関しても、様々な活動を通して生徒の協調性を高める。	動に参加を促す。 (2)学校行事を通して生徒の協調性を高めていく。 (3)部活動に関しては工夫して活動する。	も再開した。 R Y Sの活動も、コロナ禍でも積極的に再開し、ゴミ拾い SNS アプリ「ピリカ」を利用した清掃活動は昨年に続き継続して行った。 ○6月の文化祭は来場者なし、生徒のみで実施。初めて高等学校との合同開催という形式をとり生徒会中心に運営し、より充実した行事となった。体育祭は外部施設（エディオンアリーナ）で実施し、内容も趣向を凝らし大いに盛り上がった。また、保護者の観覧もありとし、生徒のハツラツとした姿を見ていただくことができて喜んでもらえた。 5年の修学旅行は海外実施を中止、10月に北海道への国内修学旅行として実施した。 今後も様々な外的要因による学校行事の変更を余儀なくされる場面も可能性としてはあるが、生徒の協調性を育むべく、学校行事や取組みは必要不可欠である。 ○部活動は、部員数も減少し、原則週3日間という限られた時間・施設の中での活動ながら、積極的に活動している。 昨年、あらたに生徒のニーズに対応する形で「情報科学部」を発足させ、今年度もプログラミングや「宇宙エレベーターロボット競技会」に参加したりしている。								
保護者に信頼される学校づくり	4. 積極的な情報発信と保護者との連携 (1)保護者との信頼関係の構築 (2)進路情報などの積極的な情報発信 (3)防災への取り組み	私立学校は校区を持たないため、保護者への確に情報発信することで、信頼関係を築いていくことが大切である。 防災訓練等の安全生活に対する取り組みも緊急の課題である。 (1)ホームページの充実およびタイムリーな情報発信 (2)保護者との連携強化 (3)防災意識の向上	(1)保護者アンケート「情報発信」の肯定回答を70%以上にする。 (2)保護者アンケートの「この学校に入学させてよかった」という満足度を70%以上とする。 (3)防災意識を向上させる	学校の様子をタイムリーに情報発信することを心掛け、保護者の期待に応えた学校づくりをしていくことが大切である。 ○アンケート1「学校のHPは充実しており必要な情報を得ることができる」の肯定回答をした保護者 <table><tr><td>全体 59%（前年 66%）</td><td>4年 44%</td><td>5年 48%</td><td>6年 78%</td></tr></table> 昨年よりも数値は下がっており全体としても目標指数に届いていない。コロナ禍の影響が長引いており、行事や取り組みが十分な形で実施できず、頻繁にHPを更新できなかったことが原因と思われる。 配布文書はすべてタブレットを通して配信している。特に、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校の対応についての連絡はさくら連絡網を活用し頻繁に行った。 4月・11月の授業参観は、感染対策を万全に保護者会も実施した。しかし全体的に保護者の参加率もコロナ前と比較しても大幅に少なく、学校の情報発信する機会でもあったが十分に伝えることができなかった。 ○アンケート2「入学させてよかったと思う」の肯定回答した保護者 <table><tr><td>全体 82%（前年 76%）</td><td>4年 88%</td><td>5年 68%</td><td>6年 89%</td></tr></table> 全体としては、昨年度より6%上がっている。学年により大きな差が見られる。それは現状での満足度によって大きく影響している。まだ、4年は後期課程に入りより丁寧な指導が、生徒・保護者にも伝わっている。5年は、進路獲得に向けて不安要素がありこのような数値になったのではないだろうか。在校生がすべて卒業するまで、さらに丁寧な対応が必要である。生徒数が年々減っていくが、教育課程や学習指導・進路指導・生活指導等すべての教育活動において、生徒や保護者の満足度を高めていく取組みを進める必要がある。 ○常に、危機管理体制に万全を期すことが求められる。防災への取り組みは、9月に大阪880万人訓練時には各	全体 59%（前年 66%）	4年 44%	5年 48%	6年 78%	全体 82%（前年 76%）	4年 88%	5年 68%	6年 89%
全体 59%（前年 66%）	4年 44%	5年 48%	6年 78%									
全体 82%（前年 76%）	4年 88%	5年 68%	6年 89%									

				教室で、大阪府の指示のもと実施。11 月には高校・附属中との合同避難訓練をグラウンドで実施することができた。また、本校は大和川以南からの通学者が多く在籍している。豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想され、各自が入学時に防災セットを購入し卒業まで教室に保管し、有事に備えている。
--	--	--	--	---